



農林水産省東北農政局長賞／社台スタリオンステーション協賛

第51回 シアンモア記念 (M1) (レイデオロ賞)

盛岡競馬場／3歳以上オープン・ダート1600m

5月10日(日) 第11競走 18:15発走

シアンモアはイギリス生まれの競走馬で、1927年に日本に輸入されてからは小岩井農場で種牡馬となり、今で言う天皇賞や日本ダービーを制するような産駒を次々と送り出しました。岩手競馬ではそのシアンモアの名を冠した特別競走を1975年に創設。1978年の第4回からは重賞として、歴史に残る名種牡馬を称えると同時にここからもまた岩手の名馬を送り出してきました。かつては1900～2000mで行われ東北サラブレッド大賞典トライアルの位置づけでしたが、2000年の第26回より1600mとされてからは春のマイル王決定戦となっています。

■ヒロイックテイル(セ9 水沢・伊藤和忍厩舎)



岩手では7戦目だった前走・桜花特別では4着と久しぶりの入着を果たした。一昨年の金沢・イヌワシ賞優勝、名古屋グランプリ2着を始めJRA時代から2000m前後の距離で実績を積んできた本馬だけに、1900mという距離は岩手では初めてだったがむしろ戦いやすかったのという認識で良さそうだ。今回は距離だけでなく相手関係も前々走の赤松杯に近い形で楽ではないが、9歳の年齢を感じさせない好調さを武器に走り抜いてくれるだろう。

前走を見ても本質的には長めの距離の方が良い脚を使ってくれるのでしょうか。年齢の割には調子や状態が安定しているのでマイルでも良い競馬をしてくれれば。(伊藤和忍調教師)

■カナオールウェイズ(セ6 水沢・菅原勲厩舎)



今季の2戦1勝3着1回の成績はいずれも重賞でのもの。昨年の桐花賞では5番人気の伏兵的な評価だったが、今年のこの馬は昨年終盤より一段階上のパフォーマンスを発揮しているといい。赤松杯ではプレッシャーをかけに行ったヒロシクンに跳ね返されて桐花賞の借りを返された形にはなったが、見方を変えればあの強敵の、ベストの距離で競り合っても最後まで戦える力を付けているということ。あくまでも対ヒロシクンとすれば対戦成績はタイ。今度は自身の側に軍配を上げてみせる。

変わりなく順調。叩き三戦目の分、前走時よりも状態は良いと感じます。作戦どうこうは特に決めていない。この馬のレースをしてくれるでしょう。(菅原勲調教師)

■ルコルセール(牡8 水沢・菅原勲厩舎)



岩手転入初戦だった前走の栗駒賞。スプリント路線の実力馬が揃った一戦だったが本馬は勝負所から余力を感じさせる走りで優勝。JRAオープンでも勝ち負けを演じてきた力量が健在というだけでなく、短距離路線の主役として戦っていける力をも示した。1400mで強さを見せただけにマイルになってどうか？が今回の課題だが、JRA時代にはマイルで勝ってオープンまでのし上がっている馬だ。ここで前走同様の強い走りを演じても何ら不思議はない。

転入初戦を勝ってくれましたがその後の状態も良いと感じますね。マイルは守備範囲の上限かもしれませんが対応してくれると思います。(菅原勲調教師)

■スズカゴウケツ(牡9 水沢・千葉幸喜厩舎)



一昨年は重賞あすなろ賞を制すなど重賞戦線でも存在感を見せる本馬だが、岩手で挙げた8勝中6勝が盛岡という“盛岡巧者”でもある。前走のように水沢でも良い勝ち方をして、昨年などは水沢の方が好走が多かった本馬なのだが、それは経験を積んで水沢でも力を発揮するようになったゆえと考えたい。シアンモア記念には今年で4年連続出走とメンバー中随一のキャリアも誇る。8番人気2着と激走してみせた23年、最初の挑戦時ほどの勢いは9歳となった今は・・・かもしれないが、得意の盛岡マイルが舞台、警戒は怠れない。

今シーズンここまでの中では一番と言って良いくらいの状態で挑めそう。重賞ではもう一步という成績ですが調子の良さ・コース相性の良さで上位に食い込んで欲しいですね。(千葉幸喜調教師)

■プリンスミノル(牡7 水沢・畠山信一厩舎)



JRAオープンからの転入になった赤松杯は4番人気に推されながら8着の結果だったが、3~4角のいわゆる勝負所までは上位陣に食い下がる走りを見せており、着順結果がイコール現時点の力量という印象ではなかった。JRA時代は間隔を取って戦うことが多かったが馬自身に問題はなく除外が多かっただけ。強いといえば1番人気で14着に敗れたり12番人気で2着に来たりと人気の逆に来る読めないタイプではあるのかも。いずれにせよ前走だけでこの馬の力量を判断するのは早計だ。

JRA時代の実績からはもう少し走れて良い馬のはず。前走も道中の走りは悪くなく見えましたしね。コース・枠順が変わって変化を期待しています。(畠山信一調教師)

■リトルサムシング(牡4 水沢・千葉幸喜厩舎)



JRA1勝の形で転じた金沢ではいきなり重賞勝ち負けの能力を発揮して3歳戦線を席卷。またたく間に重賞3勝を挙げ昨年度の金沢3歳最優秀馬の栄誉も手にした。それだけに今年に入ってから戦績には物足りなさも感じてしまうが、3歳戦線で活躍した馬が対古馬となってなかなか力を発揮できない時期があるのはある意味よくある事だ。前走は1900m、今回はマイル戦。楽ではない戦いが続いたとしても、それがきつとこの先の糧になってくれるはず。

状態は決して悪くないし、前走も距離があるいは自分の形の競馬ができなかった分の結果かなと考えています。思い切った競馬も考えつつこの先のきっかけになる戦いを。(千葉幸喜調教師)

■ギャレット(牡7 水沢・佐藤浩一厩舎)



2歳時からオープン級で活躍し重賞・若鮎賞を制覇。時おりB級に降級することがあるが即座に勝ってA級に復帰。結果、デビューからここまで7年間ほぼA級で戦い続けてきているのだから高い力量がある馬なのは間違いない。一方で勝った2つの重賞を始め重賞級での好走の多くが芝という点から分かるように自他ともに認める“芝馬”であり、またダートでの好走はほとんどが不良馬場という点も考慮しなくてはならない。とはいえ10着に終わった昨年に比べれば今年の状態はずっと良い。そこに活路を見いだしたい。

皆さんも思っているとおりやはり芝の馬。ただ盛岡はダートでもそれほど相性が悪くないですし状態も悪くはない。少しでも軽い馬場で戦いたいですね。(佐藤浩一調教師)

■ドルズプライスレス(牡7 水沢・伊藤和忍厩舎)



一昨年の春は白嶺賞・栗駒賞で連続3着の走り。オープン級でも短距離戦では勝ち星を挙げてきておりスピード巧者の印象が強い。以前は伊藤和忍師も「休み明けから間もない方が走るタイプ」の認識があり、ローテーションもそれを意識した部分があったが、今年は年齢のせい叩き良化型にシフトした印象があって、実際勝った春初戦よりも叩き2戦目の前走の方が2着とはいえない走りだった印象がある。これだけのメンバーのマイル重賞は確かに厳しいかもしれないが今年のこの馬なら今までと違う戦いぶりを見せてくれるかも。

テンのスピードで見劣りはしないでしょうが現状このメンバーでの重賞はちょっと厳しいかも。いろいろな形のレースをさせたいと思っているのでそこに期待をしています。(伊藤和忍調教師)

■トーセンマッシュモ(セ8 水沢・佐藤浩一厩舎)



昨夏に連勝した直後に2連続で出走取消の憂き目。いい流れが絶たれたか…と残念に思っていたが、結果的には出走取消を挟んで前走まで8戦連続連対確保。好調サイクルは全く途切れていないどころか近走を見ればむしろ上向きさえしている。そしてその好走が一時的なものではない事も、一般戦に限って言えば足かけ5年にわたって掲示板を外していない点で証明している。それだけ安定して戦える馬が絶好調を継続中。何か大仕事をやってのけるかも?の期待をかけてみてほしいのでは。

去勢した頃からレースに集中するようになってきた。今にして思えば血統的な裏付けもあるのでしょうね。前走の2着は展開も向いたでしょうが、今の状態を活かしてここでも良い競馬を期待しています。(佐藤浩一調教師)

■ボウトロイ(牡8 水沢・菅原勲厩舎)



岩手での5シーズン目となった今季は春初戦の駒形賞で待望の重賞初制覇。ずっとA級上位を守りつつ、常に勝ち負けを演じつつの堅実さは8歳になった今年も健在だ。対ヒロシクンで見れば、対戦成績ではさすがに分が悪いと言わざるを得ないが、一昨年12月のトウケイニセイ記念では逃げ粘るヒロシクンに4角からずっと馬体を併せ続けて僅差2着に迫っていた。それだけのポテンシャルがある馬だという事は覚えておきたい。

今年は順調・好調に来ているし盛岡マイルも悪くない。ただこれだけのメンバーになると相手が強いという印象がありますね。(菅原勲調教師)

■エスクマ(牡6 水沢・佐藤浩一厩舎)



重賞挑戦はこれが2度目、春の白嶺賞に続いての参戦になる。以前は850mからマイルまでいろいろな距離で戦っていたが一昨年の秋から短距離側に重点を置くようになって成績が一変、4連勝・6連続連対でA級に定着した。そんな戦績を経てただけにベストはマイルよりはもうひとハロン短い距離か？と感じるが、高いレベルで戦って地力も増してきたのかマイルでも以前より安定して戦えている印象もある。好調さは同厩の同僚にもひけは取っていない。ここでのカギはやはり重賞級でどこまで戦えるか？にあるだろう。

距離はこなせる範囲でしょうし盛岡も、休み明けでも好走できるくらい相性が良いコース。ただ、近走もよく頑張っているが一線級の重賞となるとどこまでやれるかな・・・とは感じますね。(佐藤浩一調教師)

■ヒロシクン(セ7 水沢・佐藤雅彦厩舎)



今季の始動戦・赤松杯は逃げて4馬身差完勝。この馬を目標に攻める馬たちを完封する強い競馬は、ただ勝ったというだけでなく「強い逃げ馬」のイメージを改めてライバル達の記憶に刻みつけた、この上ないシーズンの滑り出しになったと言えるだろう。その前走は1枠1番、今回は真逆の大外8枠12番枠からの戦いになる。決して有利な枠ではないが、昨年のシアンモア記念でも10番枠から逃げてフジュージーンを封じ込めた。どんな枠だろうが自分の競馬を貫き、そして途を切り開くのみだ。

昨春は若干急仕上げかなと思う状態でスタートしたが今年はいいい状態で始めることができました。枠順は微妙かなと思いましたが去年も外枠から勝っていますしね。去年とはまた違った展開になるかもしれませんが、自分の競馬をするだけです。(佐藤雅彦調教師)